



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

4月の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	その他	計
件数	8件	29件	3件	1件	0件	41件

(その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



いろいろな学校や園からの依頼を受けて、様々なクラスを訪問させていただいています。それぞれ、学校や園の特徴や風土がを理解した上でアドバイスをさせていただいていますが、2歳児クラスなら2歳児クラスの、年長児クラスなら年長児クラスの、3年生なら3年生のクラスの規律というのがあり、発達年齢から考えて、この位はできるはずだと思う事例がこれまでもたくさんありました。

先日、年中児クラスに訪問しました。クラス全体に規律がなく、教室がざわざわしていて、子ども達が自由に活動していました。担任の先生から気になる幼児を3～4人挙げてもらったのですが、これではもともと注意力が弱いお子さんは指示が聞こえず、また明確なルールもなく、環境的に厳しいなと思いました。いかに指示をわかりやすく伝えるかというのが、指導者には求められています。

しかし、「この保育園（幼稚園）は自由でのびのびした方針をとっています」と園長先生はじめ主任の先生に言われてしまう場合があります。そうすると、対象のお子さんはつらい状況を迫られることとなります。

一例を紹介します。給食をもらいに行く場面で、用意の終わった子どもから列に並びます。でも、列が曲がっていたり、途中で途切れたりするため、対象のお子さんは列に並ぼうとしても、どこが最終だか分からずに、結果的には横入りをしてしまいます。すると、近くの友達が「A君が並んでいるのに横入りをした」と担任に伝え、担任は「昨日も言ったでしょう」とA君に注意をします。友達に非難されたA君は「だって…」と言い返しますが、うまく説明できず、泣き出して近くにいる友達を叩いてしまいます。

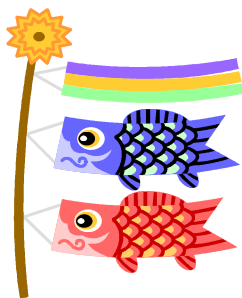
観察している大人の私でさえ、どこが最終だか迷ってしまいます。そんなときには、まっすぐ並ぶように指導するか、グループごとに並ばせて人数を少なくするか、ちょっとした配慮でトラブルなく給食をもらいに行けます。

規律と言っても、怒るわけではなく、誰でもわかりやすいルールにするだけです。子どもに話をするときには「こちらを見てください」「顔を先生に向けてください」「今、話している人は3人います」と言うか言わないかで、結果は違ってきます。

是非、特別支援教育を取り入れたクラス経営をしていただければと思います。

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。

お待ちしております。



群馬県立しらがね特別支援学校

専門アドバイザー 尾岸 純子

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113

mail shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp

(アドレスを変更しました)